

26. 堀越神社



◆所在地
天王寺区茶白山町1番8号

◆概要
聖徳太子が、叔父に当たる第32代崇峻天皇の徳を偲んで、四天王寺建立と同時に当社を創建したものである。

古くより明治の中期まで、境内の南沿いに美しい堀があり、この堀を越えて参詣したので、堀越という名が付けられたといわれている。

境内にかえる石が蹲のすぐ横に高さ50cmほど、三角錐の形で鎮座しており、無事帰る、福返ると伝えられている。

27. 大阪市立美術館



◆所在地
天王寺区茶白山町1番82号

◆概要
昭和11年(1936年)5月開館。美術館は天王寺公園の中に位置しているが、その敷地は住友家の本邸であったところで、美術館の建設を目的に庭園(慶沢園)とともに、大阪市に寄贈されたものである。美術館は設立当初の本館と、平成4年(1992年)に美術館正面地下に新設した地下展示室からなり、本館陳列室では、特別展覧会や常設展示を開催している。

28. 四天王寺庚申堂



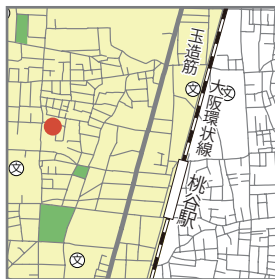
◆所在地
天王寺区堀越町2番15号

◆概要
四天王寺の数百メートル南にある庚申堂の縁起は、今から1300余年前(飛鳥時代)、我が国に色々の疫病がはやり、四天王寺の民部の郷僧都毫範が、靈験を得て祈願をしたとき、庚申堂の本尊である青面金剛童子が、16歳くらいの童子の姿で現れ、毫範に

除災無病の力を与え、それによって病は去っていったという言い伝えがあり、時は大宝元年(701年)正月7日、庚申の日とされる。以来、毫範の感得した青面金剛童子をこの地で祀られたのを開基とする。我が国の庚申信仰の始まりであり、以来庚申本尊を祀ろうとするものは、皆当寺に来て、免許を得、尊天の分身を勧請するのを例としている。

本堂は元和4年(1618年)建立されたお堂であったが、昭和20年(1945年)の空襲で焼失し、現在の建物は、昭和45年(1970年)大阪万博に造られた休憩所・法輪閣を移築したものである。

29. 大正湯の煙突



◆所在地
天王寺区松ヶ鼻町3番16号

◆概要
夕陽ヶ丘高校の東側の道を北へ入った閑静な住宅街の中にある。狭い空間をうまく開放感と質感をもつ雰囲気仕立てた設計(昭和56年(1981年))となっている。

でん ふじわら いえ たか はか
30. 伝藤原家隆墓



◆所在地 ゆうひがおかちょう
天王寺区夕陽丘町5番

◆概要
藤原家隆（1158年～1237年）は、藤原時代末期の五代の天皇に仕えた有名な歌人で、79歳の時に官を辞して浄春寺の地に隠棲した。その翌年の春の彼岸に高台から西の海に落ちる夕日を見て、その荘厳さに心を打たれ直ぐに落髪して仏性と号し、その4月9日に消えるように一生を終えた。
伝藤原家隆墓は、家隆の墓といわれ、その傍らには、御影石にこの歌が夕日とともに刻まれた歌碑がある。夕陽丘の地名は、この歌の「波の入日」からきている。

あいぜんどう あいぜん
31. 愛染堂（愛染さん）



◆所在地
天王寺区夕陽丘町5番36号

◆概要
推古天皇元年（593）、四天王寺の施薬院として聖徳太子が建立し、その後、縁結びの神様として有名な愛染明王が本尊として祀られるようになったことから「愛染堂」と呼ばれるようになった。「愛染めの霊水」は飲むと愛が叶うと言われ、映画「愛染かつら」のモデルとなったことで知られる愛染かつらの霊木が境内にある。本堂（金堂）は大阪府の指定文化財、多宝塔は大阪市内最古の木造建築物で国の重要文化財の指定を受けている。

毎年6月30日～7月2日に行われる「愛染まつり」は、大阪三大夏祭りのひとつといわれ、大阪に夏の訪れを告げる風物詩として広く知られる。愛染明王のご開帳が行われ、夜店も立ち並ぶのでたくさんの参詣者で賑わう。



32. 大江神社



◆所在地
天王寺区夕陽丘町5番40号

◆概要
天王寺七宮の1つで、聖徳太子自らまつりごとを行ったこともあり四天王寺の鎮守といわれている。四天王寺の乾（西北）に位置しているところから、江戸時代には「乾社」と呼ばれていた。当時は毘沙門天を祀っていたので、「毘沙門堂」とも呼ばれていた。

その守護獣（おつかい）は虎なので、「狛犬」ならぬ「狛虎」が座し、阪神タイガースファンの参拝が後を絶たない。また、大江神社に向かう段丘崖の階段は、「百歳の階段」と呼ばれている。

「大江」の社号は慶応3年（1867年）に、この地は西側が傾斜地になっており、その昔大江の岸と称していたので、時の祀官が改称した。当社は天王寺北村の産土神であり、祭社主神に豊受大神を祀り、稻荷神と同一神で五穀豊穰、食料保持の神である。